

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875201259		
法人名	有限会社黎明		
事業所名	グループホームありあけ		
所在地	神戸市西区水谷1丁目11番21号		
自己評価作成日	平成29年5月30日	評価結果市町村受理日	平成29年8月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	平成29年6月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 入居者の自己意志・希望・人権を重視しそして安全の確保を忘れない
2. 家の次に居心地の良い所、家族の次に安心できる人として、家族とのパートナーシップを大切にす
3. 家族と共に地域と共に住み続けられる事を支援する。
以上のケアの姿勢と入居者が、ゆっくり 楽しく 自分らしく 普通の当たり前の暮らしを支援しています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の静かな環境に位置し、前庭一面の花壇で季節の花が楽しめる家庭的なグループホームである。自治会・民生委員との連携、多数のボランティアの来訪、トライやるウィークや高校生のボランティアの受け入れを継続し、地域とのつながりを大切にしている。重度化傾向にあるが、散歩や外気浴を日課とし、ユニット毎のクラブ活動やイベント、ユニット毎の遠足等、利用者が楽しめる機会作りに努めている。ユニット毎に献立・買い物・調理を行い、利用者にも役割づくりをしながら、手作りの食事を提供している。毎月のケア会議で利用者個々の状態やケアを検討し、介護計画を見直し、現状に即した個別支援に取り組んでいる。家族の面会も多く、毎月の短信で体調や生活の様子を詳細に報告し、家族との信頼関係の構築にも努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入所者の思いを尊重し、これまでの生活と要望を大切にしている。地域の方と信頼関係を構築する為気持ちの良い挨拶を心掛けている。迷ったら基本理念に立ち帰り考えている。	地域密着型サービスの意義をふまえた、事業所独自の理念と基本方針を作成している。玄関・各ユニットの目に触れる場所に掲示し、利用者・家族・来訪者・職員との共有・周知に努めている。介護計画や支援方法を検討する時には、利用者尊重・「のんびり・楽しく・その人らしく」等、理念・基本方針に立ち戻り、実践に繋がれるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや防災訓練に参加している。又、中学校のトライやるウィークの受け入れを行っている。ボランティアの受け入れも積極的に行っている。高校生のボランティアも受け入れている。散歩に毎日出る事で顔なじみになるようにしている。	事業所近隣の散歩を日課とし、地域住民と挨拶を交わし、馴染みの関係づくりに努めている。事業所・利用者の買い物・喫茶に地域の店舗を利用している。秋祭りには神輿の立ち寄りがあり、ふれあい喫茶にも希望者が出かけている。折り紙など定期的なボランティアや、歌・楽器演奏・舞踏などイベントのボランティアの来訪があり交流の機会が多い。中学生のトライアルウィークや高校生のボランティアの受け入れも継続している。事業所前の掲示板で認知症の対応方法等の情報提供を行ったり、介護相談に対応する等、事業所の機能を活かした地域貢献にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会で利用者の対応や状況報告を行う中で、認知症の方への理解や支援内容を共有できるよう努めている。問い合わせの場合は理解している範囲で答えている。掲示板には認知症の対応方法を掲げている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)		<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2か月枚に開き入所者の状況・行事。サービス内容の報告と神戸市の回覧・地域。包括支援の情報交換等を行っている。又共益費収支・実費精算等を運営推進委員会の方々にも承認を得ている。自治会長の参加もあり、地域の行事等教えて頂き、防災訓練など参加している。頂いた意見は職員と共有し、話し合いをしている。</p>	<p>利用者・家族・地域包括支援センター職員・自治会会長・民生委員・知見者が参加し、2カ月に1回開催している。会議では、利用者の状況を介護度や移手段など詳細に伝え、行事・ボランティア・第三者評価受審など事業所の活動や取り組みも報告している。参加者からの、地域の動向や防災についての情報提供や、他事業所との取り組みについての情報交換等を、サービスや運営に反映している。議事録は玄関の掲示板に設置し、公開している。</p>	
5	(4)		<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>区の担当者も参加されるグループホーム連絡会にて、サービス内容や状況報告・空き状況や職員数の報告などの情報交換と困難事例や困っている事等を検討・対応を聞き参考にしている。</p>	<p>地域包括支援センター職員の運営推進会議への参加と議事録提出を通して、市にも利用者の状況や事業所の取り組みを伝えている。区の職員も参加する「西区グループ連絡会」に参加し、事業所間や区との情報交換を行っている。区の保護課職員と協働し、福祉的支援を要する利用者の支援を行っている。疑問や相談があれば、市や区の担当窓口にお問い合わせ助言を受けている。</p>	
6	(5)		<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>毎年外部研修に参加・施設内実習を行う事で、より良いケアを提供できるよう努めている。又、年二回身体拘束の研修を行い、身体拘束についてケア会議中に時間を設け知識を共有している。</p>	<p>「身体拘束廃止・虐待防止・権利擁護」についての研修を、毎年の年間計画に盛り込んで、年に2回定期的・継続的に行っている。研修テキストを使ってテストと解説形式で、ユニット毎に研修を実施し、欠席者にも同じ方法で学べるようにしている。利用者の状況によりドアを施錠しているユニットもあるが、見守りが可能な時間帯を中心に開錠に向けて取り組んでいる。日課の散歩や玄関前のスペースでの外気浴等、閉塞感を感じない支援に努めている。</p>	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について半年毎にケア会議中に時間を設け知識を共有している。身体拘束の知識を深めたうえで虐待なども注意を払っている。お互いに注意し合える関係が大切であると考えている。職員のトイレにポスターを張り、全員が気を付けている。	虐待防止についても、上記と同様の方法で研修を行い学ぶ機会を持っている。気になる言葉かけや対応については、管理者層からや職員間で注意し合える関係づくりに努めている。虐待防止のポスターを掲示し、意識付けも行っている。毎月のケア会議でケアについての課題を共有し、希望休を採り入れたシフト調整に努める等、職員のストレスや疲労の軽減に取り組んでいる。	
8	(7)		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加、実際の後見人より話を聞くことで学んでいる。研修や学習での話し合いにより職員が学び、利用者家族様に反映できるように努力している。	権利擁護に関する制度についても、上記と同様の方法で研修を行い学ぶ機会を持っている。現在制度を利用している利用者があり、後見人の訪問や報告等、実務を通して制度を理解する機会もある。今後も、制度利用の必要性がある場合は、管理者が窓口となり、後見人や関係機関と連携しながら支援できる仕組みがある。	
9	(8)		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書は説明時に不安や疑問点の解消に努力している。家族様の分かりやすい言葉に言い換え等を行い家族様のペースに合わせて都度確認しながら納得して頂けるように努めている。質問しやすいように都度確認も行っている。	入居希望者には見学を勧め、パンフレットを用いて事業所の特徴・生活の様子・利用料など概要を説明している。契約前に契約書類を郵送し、不明な点を質問しやすいように工夫している。契約時には、契約書・重要事項説明書・各種同意書に沿って、質問に答えながら丁寧な説明を心がけている。契約の変更時には、変更内容を明記した文書で通知し、内容に応じて同意書で同意を得ている。契約の終了時には、家族・移行先への情報提供を行い、円滑な移行を支援している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情についてはスタッフ・管理者へも直接話せるように日頃から尋ね。一カ月の様子を報告する際にも働きかけている。面会時にはケアプランの説明と共にご意見を取り入れるようにしている。	家族の面会が多く、面会時には近況を報告し、家族の意見・要望の把握に努めている。毎月のケア会議でユニット職員が全利用者の情報を共有し、どの職員も利用者の状況や生活の様子を同様に伝えられるようにしている。また、各利用者の「1カ月の短信」を毎月郵送して体調面・生活面を報告し、意見・要望が表しやすいように取り組んでいる。把握した意見・要望は、「生活記録」の「家人の連絡・相談」欄に記録し、申し送りノートで共有し、迅速な対応に努めている。利用者にも家族にも名前がわかるように「名札」をつける等、家族からの意見・要望をサービスや運営に反映している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議やリーダー会議において職員の意見を話し合い、管理者に報告し判断をゆだねている。個別に話す機会もあり、職員の意見を言っている。	ケア会議・リーダー会議を定期的に行い、職員が意見・提案を出し合う機会を設け、出席・報告により管理者も把握している。随時、個別面談の機会も設け、管理者やリーダーに個別に意見・提案を表す機会もある。勤務体制や業務内容等、職員の意見・提案を採り入れ、円滑な運営に反映している。基本的には職員の異動は行わず、合同のクラブ活動や応援体制など、馴染みの関係づくりを重視している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全ユニットと関わりを持ち、リーダーから職員の意見を聞いている。勤務状況や環境の整備の必要性など現状を把握したうえで検討している。職員の希望日数・希望休暇には出来るだけ添うにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験・能力を把握し、段階を踏みながら研修への参加の機会を確保している。内部研修。外部研修を受け報告する事やケア会議などで知識の共有を図っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会での情報交換で、空き情報を交換し、空いている施設への紹介を積極的に行っている。西区の勉強会・講習の参加を呼び掛けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今迄の生活様式や生活リズムなどを踏まえて、不安な事を少しずつ解消できるように努めている。日常の中でコミュニケーションを取り、多くの言葉を受け止めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前に家族様からの不安な事・困っている事等ははずねて受け止めている。説明の中に気になる事や要望などが無いか確認をしている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向を踏まえたサービスを考え、又、十分なアセスメントと生活歴を把握した上で計画書を作成し、提供している。必ず評価を行い家族の意見を仰いでいる。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	声掛けをし、出来る事はして頂いている。他愛のない日常会話や冗談を言い合ったりして馴染みの関係を築いている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と利用者がお互いにいたわり合えるように両者の立場から話している。家族様の協力をお願いすることもあり、職員と共に利用者を支えている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の電話や年賀状にて馴染みの関係が保てるように支援している、又ご本人の意向に沿い必要であれば介入し、来訪時にもゆっくりとできるよう配慮している。	家族・知人等馴染みの人の来訪時には、ゆっくり過ごせるように配慮している。電話や年賀状でも関係が継続できるように支援している。ユニット合同での行事やクラブ活動、また、折り紙・ピアノ・舞踊等長年継続している種々のボランティア等、入居後の新たな馴染みの関係も大切にしている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者同士の関係を把握しており、その時に応じて楽しめるような配置を考慮している。又、孤立しないように職員も介入して関わりを増やし、お互いに支え合える関係づくりを努めている。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、運営推進会議に参加して頂けたり、作った野菜を持って遊びに来られたりしている。又、時には電話にて相談を行ける事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活をしている中で本人の意見を聞き意思決定して頂いている。会話が困難な方には本人の表情・言動・生活の中から思いをくみ取るように努めている。	入居時に把握した利用者・家族の思いや意向は「入所時の記録」に記録し、介護計画に反映している。入居後に把握した内容は、「生活記録」やセンター方式の書式に記録し、管理日誌や申し送りノートで共有している。把握が困難な場合は、表情・反応等から汲み取ったり、家族の意見を参考にすると等、本人の視点に立って検討するように努めている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や家族様より情報を得てご本人の話を元に馴染みの暮らしや環境の把握に努めている。面接時に自宅に訪問出来る時は行き、環境を把握している。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現在の心身の状態を知り、一日の記録に詳しい様子を記入し、把握できるように努めている。又、どのような思いで生活しているかを感じ取り暮らしやすい環境を作るように努めている		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ご本人・家族・職員と話し合いそれぞれの意見を聞いて介護計画を立てている。又モニタリングを行い支援状況の確認を行い状況の変化等あれば速やかに対応をしている。変化していく体調にあったものになっている。	利用者・家族の意向を基に介護計画を作成し、実施状況は「生活記録」に記録している。「生活記録」は、計画と実施状況の整合性が明確に把握できる記録様式が工夫されている。担当職員が作成する「ケアの経過」を基に、毎月のケア会議でモニタリングと再アセスメントを行い、介護計画の見直しを行っている。介護計画は毎月更新され、家族に説明し同意を得ている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中・夜間の様子を事細かく記入し、心身の変化や希望等の状況や気づきを誰が見ても分かるようにしている。その事を伝える事で統一したケアを実践していきやすい。介護記録の内容から一カ月の把握・計画の見直しに活用している。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診では付き添い同行している。又利用者が入院するときには、家族が対応困難時は、必要な入院支援など出来る事は行っている。		
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での取り組みや行事などは、運営推進会議で自治会長・民生委員・あんすこの方から得て参加している。地域の喫茶店や買い物にも行き、資源の活用をしている。散歩時に挨拶をかわし地域の一員として生活している。		
30		(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回2週間ごとの往診と必要時の往診や電話やFAXで様子を伝え、助言等頂いている。緊急時にHア直ぐに対応できるようにお願いしている。入院先の紹介もかかりつけ医にお願いしている。	入居時に確認し、利用者・家族の意向に沿った受診を支援している。定期的な内科の往診・必要時の整形外科・歯科の往診を受けられる体制がある。通院については家族対応を基本としているが、状況に応じて臨機応変に支援している。往診の受診結果は「生活記録」に、通院の受診結果は「医療連携表」に記録し、職員間で共有している。家族には、内容に応じて、電話や「1カ月の短信」で報告している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の申し送りや会議の中で報告・連絡・相談をできる環境にある。いない時には電話で相談している。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時には家族と相談して早期の段階で病院の関係者と情報交換が出切るように努めている。退院時には家族の了承を得てカンファレンスに立ち会い、退院後に必要なことなど相談している。	入院時には、「介護サマリー」を作成し、医療機関に情報提供している。入院中は面会に行き、家族・看護師・地域連携室等と情報交換しながら、早期退院できるように連携に努めている。退院前に開催があればカンファレンスに参加し、退院時には「看護サマリー」の提供を受け、退院後の支援に反映している。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルに近づいた時には家族の意見を何度も聞き返しありあけでできる事を説明し、家族の了承を得ている。ケアは本人が苦痛を感じる事の内容に安心できるケアを心掛けている。	重度化・終末期に向けた事業所の方針を、契約時に説明し同意を得ている。終末期を迎える段階で、家族が主治医から説明を受け、事業所もできる事・できない事を説明し、家族の意向を確認している。事業所での看取りを希望される場合は、看取りの介護計画を作成し、家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。家族との話し合いを繰り返し、「家族・その他の相談・要望記録」に記録し、職員間で共有している。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について学習・研修を受けている。緊急時のマニュアルや対応について職員全体に回覧・実施している。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ねん2回の避難訓練をしている。29年は地震対応の訓練をしている。実施後は反省会をして記録している。近隣の方には消防訓練時には参加のお願いのチラシを配布している。日中・夜間の避難訓練を定期的実施している。	28年は2回、昼夜想定、利用者参加で、火災時の避難訓練を実施している。訓練実施前には、近隣に参加依頼のチラシを配布している。運営推進会議でも、参加者から災害対策についての意見や情報を収集し、会議での意見を基に29年は地震対応のシェイクアウト訓練を実施した。水・米・備品を備蓄している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中で親しく会話しているが、年上の方と敬った言葉かけを心掛けるよう留意している。おむつ交換は必ずカーテンを閉めるようにしている。トイレ誘導は本人だけに聞こえるように留意している。	「個人情報保護・プライバシーの理解」「接遇」についての研修を、毎年の年間計画に盛り込んで、定期的・継続的に行っている。親しみやすい家庭的な雰囲気大切にしながら、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応ができるように、職員間でも注意し合い、意識向上に努めている。個人記録類は各ユニットの鍵のかかるキャビネットに保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や日々どう過ごしたいか聞いたり、表情や言動から思いをくみ取ったり、閉じた質問をしたりして出来るだけ本人に決めてもらえるように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何か行動するときには声掛けをし嫌がることは無理強いせずその日の体調や気分に合わせて個人個人で対応している。個人のできる事を役割としてもらっている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回は美容院の方に来ていただき季節に合わせた内装に変えカットしてもらっている。毛染めの希望がある場合は毛染めしている。			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じる献立を提供するようにしている。一人一人に合った食事形態にして食べやすいようにする。下処理等で出来そうなことは無理強いせず手伝っていただく。手伝おうか？と声をかけてくれることもある	朝食・昼食は手作りの食事を、夕食はお弁当を提供している。ユニット毎に利用者の希望や季節感を採り入れた献立を立て、買い物・調理を行い、家庭的な手作りの食事が楽しめるように取り組んでいる。買い物・盛り付け・テーブル拭き・配膳・食器洗い等、利用者の好みや力量に応じて参加できるように支援している。当番表を作成する等、均等に参加できるように配慮している。希望や状態に応じて、喫茶や外食など、個別やユニット単位で出掛けられるように取り組んでいる。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	偏りの内容に献立を考えている。食事・塩分量は表を作り記入している。水分量が不足しているときには好みの水分を出したり、声掛けして水分量の確保に努めている。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者に応じた声掛け・誘導・介助を行っている。週1回歯ブラシ・コップ・技師コップの戦場もやっている。また食事前には嚥下体操を行っている。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿失禁が目立つようになると、排泄パターンを把握してトイレ誘導を行うことで排泄の自身とトイレへ行くことの認識を持っていただけられるようにしちる。なるべくADLを低下させないように下着の上げ下げなど自力でできるように声掛けしている。	利用者個々の排泄パターンを把握し、必要な場合は声かけ・誘導を行い、トイレでの排泄を大切に支援を行っている。毎月のケア会議で、利用者個々の状況把握と課題検討を行い、介助方法・排泄用品等、現状に即した支援に取り組んでいる。声かけ・誘導時、ドアの開閉など、羞恥心やプライバシーへの配慮を周知している。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操・ストレッチを行い、水分量の把握、食物繊維の多い食べ物・ヨーグルトなど日歩食べていただき、必要時に服薬調整している。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	マンツーマンで入浴していただいている。入浴声掛けに拒否があった時は時間を置きサイド声掛けすることでスムーズに入浴してもらっている。入浴日当日に外出さえたときなどは次の日に一人でも入浴していただく等工夫している。	週に2回、個浴での入浴を基本としている。毎月のケア会議で、利用者個々の状況把握と課題検討を行い、2人介助やシャワー浴等、状況に応じて安全に保清できるように取り組んでいる。入浴を嫌がる利用者には、無理強いせず、声かけやタイミングを工夫して対応している。しょうぶ湯・ゆず湯など、季節感を楽しめるようにも配慮している。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を知り、居室にて臥床していただいたり、ソファや畳を敷いて休憩していただいている。入眠前に不安発言がある時は傾聴し、おにぎりや温かい牛乳などを勧めたりしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すべての職員が今服用されている薬が分かるように、効用・副作用、朝・昼・夕・眠前の薬の表を作っている。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所前一人一人の生活歴をご家族様に記入して頂き、それをもとに趣味を取り入れたりしている。散歩・編み物・縫物・献立のメニューを書いてもらい掲示板に貼ったり、カレンダー交換などして頂いている。		
49	(22)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物同行、個別での喫茶に行っている。花見に近所の公園に行ったり、梅見にドライブをしたりしている。遠足も年一回している。ご家族様の来苑時は散歩や近くの喫茶店に行ってもらえるよう車いす対応の喫茶店の紹介などしている。	散歩を日課とし、車椅子を利用している利用者も機会均等に外出できるように取り組んでいる。希望に応じて、買い物・喫茶・外食・ふれあい喫茶等に、個別やグループで出かけている。花見や梅見などの季節の外出もある。年に1回ユニット単位で遠足を企画し、水族園・工場見学・大衆演劇等、普段は行けないような場所にも出かけられるように支援している。	
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週に一度パンの購買日があり、買う・選ぶ楽しみを家族の了解を得て少しのお金を管理できるよう支援している。買い物外出の際には、スタッフが見守りしながら好きなものをレジに手本人に支払いして頂いている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が携帯電話をお持ちの方は使える方はご自由に使って頂き、ご家族様との会話も楽しまれている。ありあけにも電話があり、希望があればいつでもかけることができる。年賀状も出しており、家族様、知人からの年賀状も楽しみになっています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の花を飾ったり、壁画等を一緒に作っている。生活音としてのテレビや調理の音・匂いも心地よいように配慮している。温度計・湿度計を置きチェックを都度行っている。	ゆったりと広い共用空間は、テーブル席とソファが配置され、また、畳を設置するユニットもあり、利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。花壇の花を飾ったり、共同制作した季節感のある作品を壁に飾る等、季節感が感じられるように取り組んでいる。台所からの音や匂い等、家庭的な雰囲気も感じられる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには本人の咳があり、ゆったり過ごせる。テレビ前にソファを置いたり、少し隠れた位置にソファを置いたりしてそれぞれが思い思いに過ごせるように工夫している。			
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけご自宅に合ったものを持ってきていただくようにしている。各居室におb-度を設置し、家族の写真やホームの写真などを貼ったいつでも見れるようにしている。	ベットとクローゼットが設置され、それ以外は、使い慣れた好みの家具や道具が持ち込まれている。タンス・テーブルセット・テレビ・装飾品などが置かれ、その人らしさが感じられる居室になっている。各居室にコルクボードを設置し、写真・カード・作品等が、思い思いに飾れるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事・出来ない事のアセスメントを行い、又、職員は周知して出来る事・出来るかもしれない事を見守り、一緒に行う事で不安のない安心した生活環境を整えている。車いす利用されている方でも立位できる方は、トイレ誘導している。			